

教 育 方 針	【学校教育目標】「 夢に向かって のびる 杉っ子 」 ～わくわく登校 生き生き学習 笑顔でつながる学校づくり～ 【目指す子どもの姿】 ○進んで学ぶ子 【確かな学力】 ○強い心と体をつくる子 【健やかな体】 ○心を磨く子 【豊かな心】 ○郷土を愛する子 【高い自己有用感】	重 点 目 標	①特別支援教育・児童支援体制の充実と啓発、人権教育の推進 ②あいさつや時間を守ることなどのマナーやルールの徹底 ③ ICT 活用による主体的に学びに向かう力、表現力の育成 ④健康的な生活習慣とたくましい体や心の育成 ⑤「ふるさと智頭」を愛する地域学習の充実・発展 ⑥読書活動の充実・発展 ⑦学校運営協議会の設立と学校地域協働活動の検討 ⑧児童の成長につながる働き方改革の推進と業務改善
------------	--	------------------	---

(4：十分に達成できた 3：ほぼ達成できた 2：あまり達成できず 1：ほとんど達成できず)									
評価項目	具体項目	現状	めざす姿	具体的方策	評価基準	2学期の取組（改善策）	自己評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
確 か な 学 力	○子ども同士がつながる話し合い活動	○児童の発言が単発で終わることが多い。	○友だちとの話し合いを通して学習内容を理解できている。	・算数の学習で行う話し合い活動（ねりあい）で児童が発言をつなげあうことで学習内容の理解を深める。	・授業中の教員による見取りと児童アンケートにおける肯定的項目達成70%以上	・学習中にできるだけ、話し合い活動を行う。	3	・児童アンケートで、算数の学習がよくわかってい る。86%友だちの意見を取り入れよ うとしている79%	・子どもが伝え合 う場面のある授 業を行う。
	○モジュールの時間におけるICTの活用	○本年度より全児童にタブレットが配置され、有効活用が必要である。	○週に一度は、タブレットドリルか、すららを活用する。	・1年生はタブレットの時間に、それ以外の学年はモジュールの時間にタブレットドリルかすららを行う。	・教員へのアンケート達成率80%以上	・ICT支援員と協力して教職員のタブレットの技能をあげ、活用状況を高める。	4	・児童アンケートで タブレットに關する項目 9 1 %	・スマイルネクストをモジュールの時間に活用する。
	○図書館及びICTを用いた情報収集と有効活用	○町立図書館との連携を始め、充実した図書館を有効に活用しきれていない実態がある。	○図書館を活用した情報収集・活用を中心とした学習を行う。	・月に一度は図書館を活用した情報収集・活用を中心とした学習を行う。	・教員へのアンケート達成率80%以上	・学校司書と協力し、学習の中に図書館での活動を計画的に取り入れるようにする。	2	・図書館の本を読む項目が66%	・重点単元を伝え、関連図書を用意する。
		○ICTを用いた情報収集の経験が不十分である。	○ICTを用いて情報を収集したり、まとめたりする。	・1週間に一度はタブレットを用いた情報収集を行う。(3年生以上)	・教員へのアンケート達成率80%以上	・ICT支援員と協力し教職員のタブレットへの習熟を図る。	3	・ICT支援員の活用が進んだ。	・使い方の指導を行う。
豊 か な 心	○挨拶の奨励	○バスの降車後、児童玄関前など、決められた場所では挨拶をしようとするが、それ以外では関心が薄い。	○進んで場に応じた、学年なりの挨拶ができる。	・「挨拶レベル表」を各教室に貼り、自分の挨拶のレベルと目標の意識化を図る。 ・朝の3点挨拶に取り組む。(学校前・児童玄関・教室に入るとき) ・挨拶のよかった人の発表(運営委員会と協力して取り組む)	・児童アンケートの挨拶に関する項目の平均達成率80%以上を目指す。	・マンネリ化防止のため「挨拶レベル表」のバージョンアップを図る。(挨拶標語の代表作品を掲載する等)	3	・朝の挨拶や来校者への挨拶など校内の取り組みは良くなった。 →放送や集会などで呼びかけ、意識化を図る。 →PTA各支部代表に聞いてみる。	・地域への挨拶の強化 →放送や集会など で呼びかけ、意識化を図る。 →PTA各支部代表に聞いてみる。 ・今年も校長表彰をしてもらい、さらなる満足感につなげる。
		○担任や決まった人には挨拶ができるが、来客や担任以外には挨拶ができにくい。	○決まった場所、決まった人以外でも挨拶ができる。			・校内放送などを活用し、意識化を図る。	3	・校内放送をしたことで児童の満足感につながった。	
						・「挨拶のよかった人」を放送する等、委員会と協力して行う。	4	・ただ、地域での挨拶が弱いと感じる。(挨拶がなく寂しいとの地域コメント)	
健 や か な 体	○体力の向上	○新体力テストでの柔軟性・50m走の課題に対して、全校で取り組んでいきたい。	○自分の体の柔軟性や走力を向上させようとする意識を持ち運動する。	・体育の授業を中心に、柔軟性や走力、体幹や反射的な運動能力を向上させる運動を取り入れる。 ・朝の会での「ワンミニッツエクササイズ」等の実施や学級のみinnで楽しく挑戦できる運動(大縄等)を工夫して行う。	・長座体前屈や50m走を春と秋と比較し向上した児童70%以上。 ・児童アンケート「良い姿勢で学習した」等の達成率75%以上。	・ワンミニッツエクササイズ等、工夫して実施する。(体育保健課HP他校の取組を参考)	3	・50mでは、ほとんどの児童が記録を短縮できた。記録が良くない児童にはフォームの改善を指導した。	・冬場も体育学習で、柔軟運動を意識して取り入れる。
		○姿勢の保持や大きなけがを未然に防ぐことができる運動能力や体幹を鍛えたい。	○良い姿勢を保持して学習できたり、自分の身を守るための運動能力を向上させようと努力したりする。	・早寝・早起き・朝食、給食でバランス良く食べることを指導する。	・前年度より、けがをした児童を1割減らす。	・保健委員会が行った体幹トレーニングや足の指を開く運動などを工夫して行う。(各学年学級で、いいと思うことを実践する)	3	・立腰への児童の意識は向上した。授業中の書く姿勢にもつなげたい。 ・けがについての報告(養護教諭より)や、栄養士の話、給食委員会からの呼びかけを学級指導に生かす。	・良い姿勢で学習することをさらに意識していく。 ・1月の体重測定で、「危険予防」について、保健指導を行う。
保 護 者 ・ 地 域 と の 連 携	○保護者・地域との連携による「開かれた学校・信頼される学校づくり」	○統合後10年が経過し、コミュニティ・スクール導入に向けての動きが求められている。	○メディアの特長を活かして情報発信している。	・HPによる情報発信に向けたフォルダを作成し活用する。wordの活用	・週2回程度更新している。	・担当や記事内容の偏り解消のため、学年・学級通信の共有フォルダを設け、HPにも活用する。	2. 5	・「智頭小ニュース」の更新平均週1.4回 ・保護者からの評価は昨年並み(肯定91%)	・担当を決めて更新を行う。 参観日…担任 スキー…山本・聲高
		○情報発信が学校からの一方通行になっている。	○子どもを中心に置いた保護者・地域との協力・協働体制づくりができている。	・地域の情報掲示板を作り、各地区公民館からの情報発信(随時掲示)の場を提供する。	・6地区の情報が発信されている。	・掲示板に図書館など「町」のスペースを新設する。掲示板の児童へのアピール、各地区公民館・振興協議会へのアピール(役場での会合時に)を行う。	2	・児童へのアピールは折に触れて行った。地域へのアピール不足。	・年明けに各地区公民館・地区振興協議会への依頼電話をする。
			○コミュニティ・スクール導入に向けて、PTA、町教委、役場、各種団体等の役割が明確になっている。	・コミュニティ・スクール導入に向けて、学校と地域の情報交換会を開催する。	・2学期開始までに情報交換会を開催している。	・校内で教員への周知と学校の願いを話し合う機会を設ける。	3	・研修会をもち、模擬熟議を行った。	・県の研修動画を活用して職員研修を持つとともに、町の動きを知らせる。 ・既存のリーフレット等を活用して保護者啓発を始める。